

## CAVOK V 航海日誌 2013 年 #6

7/20(Kusadashi) ~ 8/2 (Marmaris)

2013 年 7 月 22 日 松崎義邦氏メール

皆様に

お陰様で8月2日に8月帰国する間 CAVOK5 を保管して置くマリマリスに着きました。  
7月はメルテミの強風に気を使っての航海でしたが、出港出来ない日があったものの比較的順調な航海が出来ました。

正田さんの帰国後は三浦さんと私の10歳になる孫との航海をトルコにモータークルーザーを置いていらっしゃる稲次夫妻の先導でギョコヴァ湾を楽しみました。トルコの南西端になるダッチャ半島から東はエーゲ海から地中海に変わりますが、海の様子も変化します。海の水の透明度も上がり、水温も若干上がりますので毎日の水泳が楽しみでした。

ダッチャ半島の先端にあるクニドスは紀元前から栄えたところで、入り江を見渡す位置にギリシャ劇場の遺跡があり、その中で錨泊して星空を見ることもできました。そしてクニドスの東にあるボズッカレの入り江は絵に描いたような美しい入り江でした。丘の上にあるヨハネ騎士団の要塞からの眺めはピカールでした。そして小さなレストランの棧橋に係留しての食事もし楽しみました。

ここマリマリスは大きなリゾート地で大規模なマリーナが3か所もあります。生憎と海上係留は満杯で陸置きでの保管になりました。

8月下旬に戻り今年の後半のトルコの航海を予定しております。

今後ともよろしくご支援お願いいたします。

Marmaris にて  
CAVOK5 松崎義邦

以下の写真を添付させていただきます。

1. エフェソス遺跡
2. イングリッシュハーバーの棧橋レストランで稲次ご夫妻と
3. クニドスの棧橋
4. クニドスの入り江を見下ろすギリシャ劇場
5. ボズッカレの入り江
6. ボズッカレの棧橋レストラン アリババ
7. ボズッカレで水泳

## 航海日誌 2013年 #6

7月20日（土曜日）Kusadasi

今日は昨日イスタンブールに着いた三浦さん(H23年卒)と今日トルコ航空の一人旅で到着する孫の陸(10歳)を迎えにイスタンブールに行く日だ。

昨日レンタカーの予約を13:30にしていたのでお昼を食べた後受け取り、約60KM先のイズミール空港に直行する。イズミール空港からイスタンブール空港迄はトルコ航空で40分ぐらいだ。トルコ航空はしっかりしていて今まで乗った便では全て定刻に出発している。短い40分の区間にミールを出して回収している。機材も新しく料金はこの便で片道5000円程度だ。トルコ自体の経済の発展もあるがかなり努力している航空会社と思った。

成田からのトルコ航空便は30分程定刻より早く到着した。出国出口で待っているとトルコ航空の係員に連れられて陸が旅の疲れも見せず現れた。

この後前日にイスタンブールに着いている三浦さんと国内線のターミナルで待ち合わせてイズミール空港まで飛ぶ。イズミール空港着は22時過ぎになり、駐車場に停めてあったレンタカーでクシャダシのマリーナに行く。正田さんと悦子は24時近くなったが到着を待っていてくれ、三浦さんと陸の到着を祝ってお話していたら就寝が3時になっていた。

7月21日（日曜日）Kusadasi 快晴

エフェソス遺跡を三浦さんと陸に見せたかったので、悦子も一緒にレンタカーで行く。陸が2000年前のローマの遺跡をどう感じ取ったのか分からないが歴史の深さを少しでも感じ取ってくれればと思った。

昼過ぎに戻り乾いた喉をビールで潤し、冷しうどんを頂く。ビールが効いて皆さん心地良くお昼寝をする。

昼の後は、陸は長旅にもめげず元気でプールで泳ぎたいということでマリーナのプールで泳ぐ。子供は元気だ。

相変わらず良いお天気の中、夕日を見ながら三浦さんと陸の歓迎会の夕食をコックピットでする。今日のメインはラムチョップ、野菜サラダ、ガーリック炒めのポテト、悦子仕込みのメゼを白、赤ワインで頂く。ニンニクと醤油で味付けした現地産ラムチャップは人気者だ。



明日は40NM先のDidimに三浦さん、陸の初航海になる。

7月22日（月曜日）Kusadashi～Didim（40NM）快晴 北10～30ノット

朝食後07:25に舳いを解く。3時間半ほど機帆走した後北からの良い風が吹き出し追手の風を受けてセーリングする。風は気まぐれで一時25ノット以上吹き出しリーフするが後に風が弱まりフルセールにするが機速が3ノット以下になり機走にする。

風が弱くなったお昼にスパゲティーミートソースを頂く。

陸はトローリングに夢中でロッドを持って頑張るが今まで通り釣れることはなかった。その後再び風が吹き出し白波が立ちはじめた中、時には8ノットを超える速度で快走する。

14:50にD-Marin Didimに入港する。20ノットを超える風の中での着岸であったが風が正対していたので楽であった。勿論マリナースタッフがラバーボートで手伝いに来てくれた。

このマリナーは今年の冬半年CAVOK5を越冬させる契約をしているところだ。D-Marinは大きなチェーンマリナーで設備の整った良いマリナーだ。

そして手続きをしに行くと、次のマリナーで会う約束をしているハイドロレンジア号の稲次さんが連絡をいれて置いてくれ、知り合いのこのマリナーのチャンドラーとワークショップを営んでいるジャンさんの計らいで係留料無料にしてくれた。

稲次さんは14年前より地中海を航海していて10年前よりトルコが気に入り隣のマリナーのトルトグトレイスにグランドバンクス42のモータークルザーを係留している。

陸は今日もプールで泳ぐ。夕食はDestiny号のフランス人Evaに教わったフランスの家庭料理のひき肉とジャガイモの重ね焼き、醤油風味焼きナス、パセリ入りご飯、野菜サラダを頂く。そして三浦さんが持ってきてくれた日本酒を冷で美味しく頂く。

7月23日（火曜日）Didim～Turtgureis（20NM）快晴 北5～15ノット

出港前9時前にジャンさんにお礼するため、ワークショップに行ったが出張中で会えなかったのでお礼と秋に又くる旨伝えてから出港する。9時にマリナーのスタッフに手伝ってもらい出港する。槍着けしていると両サイドの艇の隣の舳いが長く伸びていて横からの強い風の時は出づらいのでどの船もスタッフの手伝いを受けて出ている。

ギリシャとトルコの間島々を見ながら後ろからの風を受けて帆走するが連日のメルテメの影響かうねりが若干入っている。陸は、今日はトローリングせずコックピットで横になっていたが幸いに船酔いすることなく行きかう船を探していた。

トルトグトレイスは今年のスタート地点、冬CAVOK5を越冬させたレロス島から20NMしか離れていない。D-Marin Turgureisに入港の為の無線を送るとHydorangea号の稲次さんが無線を取ってくれ、マリナーに今交信した艇は私の友人の艇で私の近くに案内するよう伝えてくれた。13:00に稲次さんのお迎えの下舳いを取る。

陸は早速マリナーのプールに泳ぎに行く。此処のマリナーも大きなマリナーでショッピングアーケ

ードもあり全てが揃うところである。

夕食は稲次さんがプールサイドのレストランにご招待してくれ、7種類程のメゼ(前菜)とロゴスと云う白身の鯛に似たお魚のスープ煮風お料理をご馳走になる。ロゴスのアクアパツァ風料理はトマト味スープとあいまって美味であった。

艇に戻ってから明日帰国する正田さんのサヨナラ会をリキで飲みながらして就寝する。

正田さんとは3週間の一緒の航海だったが一日 80NM 走ったり、30 ノットを超える風の中を帆走したり、そして孫の陸の友達にもなってくれ挙句の果ていつも海パンで居る正田さんの事を陸には、海パンおじさんならまだ許せるのだが“海パン”と呼びつけしたりするほど親しくしてもらった。

## 7月24日(水曜日) Turgutreis 快晴

朝正田さんがボドラム空港経由イスタンブールで帰国するので見送る。その後稲次さんのグランドバンクス 42 のハイドレンジャ号に全員乗せて頂きマリーナの向かいにある島にアンカーリングに出かける。

昨日と違って若干風も収まり、波もなく絶好の海水浴日和になる。この島は無人島だがたった一つある桟橋に海水浴客を乗せたガレット船が来る。アンカーリングしている船は 10 隻以上ありこの辺の絶好のアンカーリングのポイントようだ。

我々も早速飛び込み体を冷やす。地中海の水は意外と冷たく30分も水に居ると体が冷える。陸はシュノーケルが使えるが足ひれの使い方が未だだったので足ひれの使い方を教える。

ゴムボートで島に上陸して桟橋から飛び込んで遊ぶ。桟橋はガレット船で来た海水浴客で賑やかであった。ガレット船は1時間程停泊してから出て行った。

お昼は稲次さんの奥様の千賀子さんがチキンかつ、カレーライス、ポテトサラダ、イカの煮ものをご馳走してくれる。奥様お料理がお上手で大変美味しく頂いた。陸はカレーライスを3回もお代わりして奥さんを喜ばす。

グランドバンクスは乗り心地が大変良く島への一日のクルージングを楽しませてもらった。そして稲次さんは退職後から14年間グランドバンクスに乗っているだけあって大ベテランの操縦振りであった。

夕食は岬の先にある正面にコス島が見える岬の直ぐ上にあるレストランにご招待を受ける。素晴らしいロケーションで海峡を行き交う船と数キロしか離れていない対岸のコス島の明かりを見ながらの食事であった。

メゼとイカの串焼き、スタッフドカラマリのグリルを稲次さんお薦めのトルコさん白ワインで頂き、メインはスズキのグリルを頂くがスズキが脂がのっていて美味しく、今までスズキは遠慮していたが見直した。イカの串焼は日本の串焼きの味で美味しかった。

22:30 にタクシーの迎えが来て艇に戻るがお腹一杯になる。稲次さんに大変なご馳走になった。

## 7月25日(木曜日) Turgutreis~Cokertme (30NM) 快晴 北北西~北西 10~15ノット

稲次さんの案内で今日から3日間 Gokova 湾の素敵なポイントを廻ることになった。初日は Cokertme,2日目は Seven Island,3日目は English Harbour とハイドレンジャ号と一緒に航海になる。

今日はここから 30NM 程湾内に入るチャコルテメに行く。ハイドレンジャ号は巡航速度が 7~8 ノットなので我々が先に 8:20 に出港する。途中岬を回るとき昨日ご馳走になったレストランを沖合から見つける。

約2時間機走すると北西から良い風が吹き出したのでセーリングに切り替えコースによっては観音開きにしたり、少し風を入れるためクォタリー気味で走ったり 6 ノット以上をキープして気持ち良く走る。

後ろから来るはずのハイドレンジャ号が中々見つからず、少し待つつもりで風が弱くなったがそのままセーリングする。

お昼はソーメンが売り切れたせいもあって、お蕎麦を頂く。お蕎麦も美味しい。陸は相変わらず良く食べる。そうこうしているうちに VHF で稲次さんから呼び出しがあり、こちらはもう着きましたがこちらは何処ですかと連絡が入る。こちらから応答したがハンデイトークの為通じなかった。

こちらの位置はもう 3NM の位置にあった。チャコルテメの入り江に入る前に VHF で稲次さんと呼び出したら応答があり棧橋の係留位置を教えてくれる。ここはホテルの棧橋だが 10 艇程係留出来るようになっていてレイドムアリング(槍着けを船尾からするとき船首の舳が準備されている)があり助かる。

レストランで食事すれば係留料は無料である。稲次さんはここを気に入って良く来るそうだ。棧橋の横は海水浴場で我々も係留後棧橋から飛び込んで泳ぐ。水が綺麗で気持ちが良い。

夕方 7:30 にレストランの予約を稲次さんがしてくれ海辺のレストランで定番のメゼの後スズキのグリルを食べる。チャナッカレと云う地元の白ワインが魚に合う。

## 7月26日(金曜日)Cokertme~English Harbour(20NM)快晴 西 5ノット

今日は 08:50 に舳を解き、Gokova (ギョコヴァ) 湾の奥の対岸の English Harbour に行く。予報の風では北風が 15 ノット以上吹く予報だったが弱く全行程セールを揚げることなく機走した。

後から出港したハイドレンジャ号が途中で我々を抜いていく。入り江の奥深くにある English Harbour の中にあるレストラン棧橋に 12:00 に着けるが先に着いたハイドレンジャ号の稲次さんが待ってくれ VHF でムアリングの指示をしてくれる。此処もチャコルテメと同じで簡単に舳えた。

入り江には恰好な錨泊地が沢山ありそれぞれの場所で錨泊していた。お昼は CAVOK5 で稲次ご夫妻を招待して、スパゲッティ・ミートソースとペンネ、サンドウィッチを頂く。

久しぶりにラバーボートを降ろして湾内を探索する。特に水が綺麗なわけではないが入り江の中は湖面の様に静かだ。昔ここに英国艦船が隠れていて、そのいわれで English Harbour と名がついたそうさ。

日中の暑さを凌ぐためラバーボートを岸の松の木に舫い陸、悦子と泳ぐ。

夕食は係留してある直ぐ前のレストランです。いつもの様にメゼを頼んで今日はスズキのフライにする。スズキばかりの夕食が続くが美味しく飽きない。

西に面した海辺のレストランから見る夕日は入り江の海に反射して素晴らしい景観であった。



#### 7月27日（土曜日）English Harbour 快晴

ゆっくり朝起きる気が付いたら9時前であった。良く寝た。連日の陸と水泳で程よい疲れが睡眠を欲していたようだ。

稲次さんの奥様の千恵子さんより洗濯機をお使いなさいと親切なお言葉を頂き悦子が洗濯に行く。手洗いの洗濯は大変なのでランドリーに出したりしているが助かる。

お昼は CAVOK5の船上で稲次ご夫妻をお呼びして冷しうどんを食べて頂く。稲次さんが冷奴を持ってきてくださりこちらに来て初めてお豆腐を頂く。イスタンブールにあるそうさ。

午後はラバーボートで泳ぎに行くが沖合に風があったので近場のブイに舫って泳ぐ。夕方レストランのテラスでビールを飲むがビールに炭酸水を混ぜて飲むと乾いた喉に心地よく入る。

今晚は CAVOK5での食事のご招待をした。稲次さんはレストランからカラマリリング、フライドポテトを届けてくれる。悦子は三浦さんが持ってきてくれた泉平のいなり寿司をメインに茄子煮、キュウリの浅漬けを作る。

夕食はトルコ料理が多かったので久しぶりのいなり寿司は美味しかった。泉平のいなり寿司はお勧めだ。

#### 7月28日（日曜日）English Harbour～Cokertme（20NM）北東5ノット

明日三浦さんがボドルムの空港から帰国するので交通の便の良いチャカルテメに戻ることにして6日間ご一緒していただいた稲次ご夫妻と別れる。トルグトレイスでは2晩ご馳走になり、ハイドレンジャ号で海水浴に連れて行っていただいたり3泊4日でギョコヴァ湾をご一緒に航海して頂いたり大

変お世話になった。

0800 に舫いを解き稲次ご夫妻に見送られ出港する。風は追い風だが弱く20NM 全行程機走になる。11 時には棧橋の前に着いたが水が綺麗なため近くの錨地でアンカーリングして海水浴を楽しむ。下は砂地で見るとべきものは何にもないが透明度は素晴らしく良い。

お昼にラーメンを食べて 14 時に棧橋に舫う。我々は前もって予約してあったがここに 3 つのレストランと棧橋があり艇が入ってくると 3 つのレストランのボートを飛び出てきて、のどかな雰囲気の中客の奪い合いをしている。

一番左の棧橋にはチャーターボートのサンセールのチャーターヨットが 10 隻以上係留していた。この棧橋はチャーター会社と契約しているようだ。我々の係留棧橋は 10 艇程係留してありここは稲次さんが、かつてお世話になったことがあり常連だそうだ。

ここは南に入り江が開いていて南からの風の時は波が入り棧橋と艇が上下に揺れて乗り降りしにくい。こちらのヨットをやっている方は年配の方が多いがそんな中でも上手に乗り降りしている。

着いてからテラスで一杯やるが日本語の上手なトルコ人が来てこのあたりの情報を話してくれる。彼は日本と貿易の仕事をしていて日本に何十回も行っているようだ。棧橋は格好の飛び込み台になり皆さん楽しんでいる。陸と二人で何回も飛び込んで遊ぶ。

夕食は明日帰国する三浦さんのサヨナラ会になるが係留した手前このレストランで食事をしなければならないので CAVOK5 でなくレストランです。メゼ、鳥のシンケバブ、キョフテ(肉団子)カラムリングをチャナッカレ白ワインで食べる。夕暮れ時を心地よい風を受けながら食事を楽しんだ。

## 7月29日（月曜日）Cokertme～Knidos（28NM）快晴 北西微風

朝9時に三浦さんはここからボドルム空港に予約してあるタクシーで向かう。

朝食後、我々は 8:35 にクニドスに向けて三浦さんの見送りを受けて出港する。風のパターンが午前中穏やかで午後3時頃から強くなる傾向があるので早めの出港を心掛けている。風は終始微風で全行程機走になる。クニドスはダッチャ半島の西端で北側はエーゲ海、南側は地中海になる。途中10艇以上の行き交うヨットに会う。

お昼はさんまの蒲焼丼を頂くが孫の陸はお代りをして良く食べる。

13:45 にクニドスの入り江に入り10艇程係留出来る浮き棧橋の空いているところに着けようとしたが、係の人が来て、後から艇がたくさん来て横抱きに係留するので今停まっているガレット船が1時間ほどで出るのでその後



着けるよう指示を受ける。入り江の中でアンカーを打って待つことにする。ラバーボートを降ろして上陸する。

5mほどの深さだが底が綺麗に見え素晴らしい透明度だ。クニドスは歴史が古く紀元前9世紀からギリシャの都市国家として栄え、その後ローマ時代も貿易港として栄えたところだ。入り江を見下ろすように劇場があり、アゴラ、オデオンの遺跡が残っている。

そして此処はアフロディーテ像で有名で、紀元前4世紀の古代ギリシャの彫刻家プラクシテレスの史上初の等身大の女性裸像が置かれていた。

現在は壊されて見ることは出来ないがローマ時代に複製が作られ現在この像がバチカン美術館に置かれているそうだ。

この入り江の反対側にも入り江がありそちらは古のハーバーだったそうだが浅いため現在は使われていない。



ガレット船が出た後アンカーを打って槍着けをする。早速入り江の中を泳ぐが素晴らしい透明度の中、小魚を見ながら気持ち良く泳ぐ。夕方になると続々と艇が入ってきて、最初入ろうとしたところは横抱きにして係留していた。

夕食はカレーライスを頂く。私は疲れが溜まっていたのか、食後そのままコックピットで寝てしまい、寒さで目が覚めたのは24時過ぎであった。陸がタオルケットを掛けておいてくれた。自然と歴史が混じった素晴らしいところだ。もう一泊することにする。

## 7月30日（火曜日）Knidos 快晴

朝ゆっくり起きて朝食後入り江を囲むようにある遺跡の観光に行く。イタリア、ギリシャ、トルコもそうだが当時のギリシャ人は見晴らしの良いところに劇場を作っている。此処もそうで入り江を見下ろすように劇場が出来ていた。そしてその上から見る海は素晴らしく美しい。

そしてギリシャ時代からローマ時代へとギリシャの都市国家が変遷している。ヘレニズム文化だ。お昼は入り江のレストランで少々辟易気味だがキョフテ、鳥のシシケバブ、カラムリリングを食べる。

水を補給した後棧橋を離れて入り江にアンカーを打ち今晚は錨泊して星空を眺めることにする。水が綺麗なので泳ぐのが気持ち良い。海底には何も無いが小魚が群れをなして泳いでいるのが目の前に見える。

夕方が近づくにつれて次から次に艇が入ってきて暗くなるまでに16艇程アンカーリングした。

夕食はラムチョップ、陸は好物のカレーライスを頂く。稲次さんに教えて頂いたトルコ産ワインのチャンカレが美味しい。食後悦子と陸は星座を見ながら夜を過ごす。私は不覚にも今晚もコックピット

で寝てしまった。素晴らしい日だった。

## 7月31日(水曜日) Knidos～Bozukkale (35NM) 快晴 無風～西10ノット

今日は Datcha に行く予定だったが稲次さんからメールでダッチャは混雑していて且つ見るべきものもないと云う情報を頂き急遽ボズカッレに変更する。

0800 にアンカーを前方の船と交差しないように上げる。生憎と風が無く 12 時過ぎまで機走する。

12 時過ぎに追手になる西風が吹き出し帆走を楽しむ。夏も盛りで行き交うヨット、モーターボートが多い。

2 時にボズカッレの入り江に入り最初にあるレストラン棧橋に 14:30 着ける。ここも海が綺麗で海底まですっきりと見える。周りの景観も素晴らしくクニドス同様すっかり虜になってしまった。

ラバーボートで入り江を廻るがあちこちでアンカーリングして船尾から岸へ舳れを取っている。

棧橋の直ぐ上はヨハネ騎士団の城壁がありそこから見る入り江の姿は素晴らしかった。

棧橋から陸は飛び込んで遊んでいた。

夕食は棧橋のあるレストランでトルコ料理をチャンカレのワインで食べる。

夜星を見ているうちに今晚もコックピットで陸と二人で寝ていた。



## 8月1日(木曜日) Bozukkale 快晴

棧橋に係留していた艇を午前中に全部出港していった。我々も隣の入り江に移動を考えたが午後

から風が強い予報が出ているのでもう一日ここに滞在することにする。ゆっくりした朝食を食べてから陸と入り江を見下ろす丘に登る。放牧されている羊を見る。

ここのアリババ・レストランの栈橋は電気も水も無い。地上の交通の便が無い素朴なところだ。電気は発電機で決められた時間だけ発電で 12 時過ぎから電気が使えるということで 12 時よりビールを飲みながらパソコンでの作業をする。

お昼は艇でお蕎麦を頂く。シェスタをした後、陸とラバーボートで対岸の岩場に行き岩にボートを舫って泳ぐ。それにしても綺麗な海だ。

栈橋に戻ってからも栈橋から飛び込んで遊ぶ。午後 3 時過ぎると続々と艇が入ってきて夕方には栈橋は一杯になる。各国の言葉が入り乱れ欧州の絶好のクルージングポイントのようだ。

今日もアリババ・レストランでメゼとシシケバブとブルーフィッシュのグリルを食べる。

小さな家族経営のレストランだが美味しい料理を出してくれた。夜風が気持ち良く、コックピットで休んでいたらいつの間にか陸と寝てしまい起きたら夜中の 1 時だった。



## 8 月 2 日（金曜日）Bozukkale～Marmaris（28NM）快晴 西 5 ノット

今年前半の最後の航海だ。アリババの人達に見送られ 09:00 に舫いを解く。風の収まった湾内を出てマリマリスに向かうとヨット、モーターボート、ガレット船と 20 艇以上の艇が行き交っていた。追手だが風が弱く途中 1 時間程帆走したが後は機走にする。

マリマルスの湾は奥が深く、又港と大きなマリーナが 3 つ程ある。此処はリゾート地であるとともに南トルコのクルージングの中心地点であるようだ。その中の Marmaris Yacht Marina に予約をしていたが海置きは満杯で陸上置きの予約だ。海上バースが 600 隻、陸上置きが 1000 隻置ける規模の大きさだ。

14 時前にマリーナの入り口に来るがスタッフが満杯で係留出来ないと云いに来るが、明日上架する予約がある旨伝えたところ、やっとオフィスと連絡が取れクレーン用ドッグに係留することになった。本当に一杯なのだ。明日上架の予定だ。

大きなドッグなので CAVOK5 の横を上下架する艇が出入りしていく。1 か月ここに保管しておくので艇内掃除、ロープの塩出し、ジブを降ろしたりの作業を炎天下の中でする。

陸は洗いのお手伝いをしてからマリーナのプールに泳ぎに行く。私も一仕事した後プールで体を冷やす。悦子は室内掃除、食料整理で大忙しだった。

夕食は残り物の整理だったがタイ飯があり美味しく頂く。日中の暑さが嘘のように過ごしやすくなり夜風が心地良い。

明日上架して全ての作業を終えて 4, 5 日と観光して 6 日に帰国する予定だ。

以上